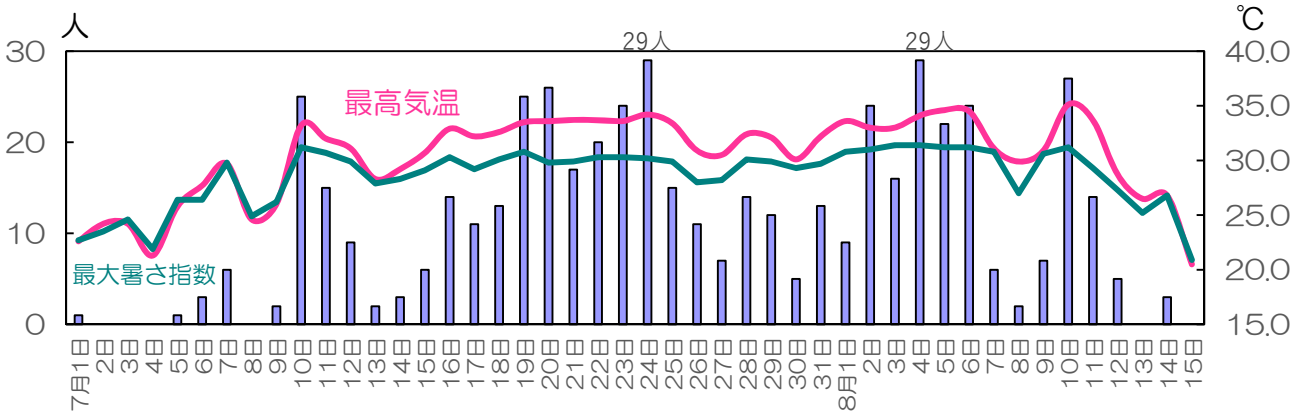


熱中症情報

＜搬送数＞

令和3年5月1日～8月15日までの搬送数（消防局データを使用）は、計578人（5月19人、6月42人、7月329人、8月188人）でした。8月に入り、最高気温が33℃を超え、搬送数も多かったです。8月12日以降は、30℃以下の日が続いており、搬送数は減少傾向です。長雨の影響で蒸し暑い日が続きますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

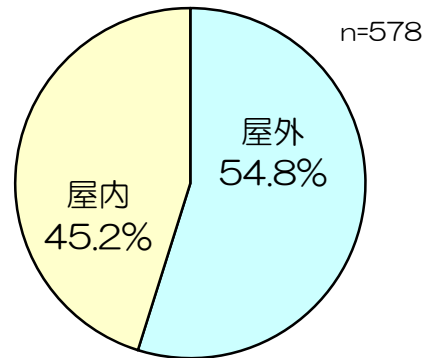
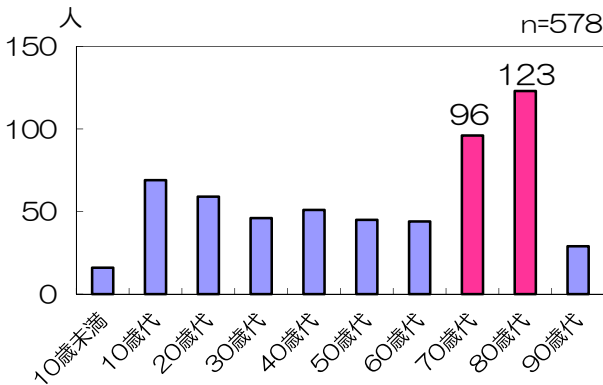
熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。



暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

以下のグラフのデータは、5月1日からの累積搬送数です。

＜年齢別＞ 80歳代が123人（21.3%）で最も多く、**＜発生場所＞** 屋外54.8%、屋内45.2%で、屋外での発生が多くなっています。



＜重症度＞ 軽症59.3%、中等症36.7%、重症2.9%、重篤1.0%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が57.0%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

